



# モッテコイ 諏訪小魂！

～ 本物の【あかぎの心】を発揮しよう ～

長崎市立諏訪小学校 校長 山崎 直人

## 諏訪小第26回卒業証書授与式

3月16日、諏訪小学校第26回卒業証書授与式を挙行いたしました。74人の卒業生が笑顔で巣立っていきました。

今年度はコロナ禍の過去2年からは随分と緩和された、いわゆるコロナ前にほぼ戻す形で行うことができました。

ご来賓の皆さまへのご招待もコロナ前に戻し、ご自身の判断でとお願いしたところ、30名を越える多数の方々にお越しいただくことができました。感謝に堪えません。

長崎市田上市長様からのご祝辞は動画で配信されましたので、前日に視聴しました。永田育成会会長さまからのお言葉は、先に行われた「6年生を送る会」の後でお聞かせいただいていたいました。

様々な工夫をしながらも、卒業式当日は、卒業生はノー・マスクで参加し、晴れやかな笑顔を見せることができました。本当に喜ばしいことです。

在校生代表の送る言葉は5年2組の野田春陽さんです。丁寧に一言一言をかみしめながら心を込めて6年生への感謝と、伝統のバトンを受け継いで頑張ろうとする意欲を語りました。

卒業生代表の木原茉那さんは、お別れの言葉の代表として、最高学年として過ごしたこの1年の思い出を自らの経験と成長を実感する言葉で綴りました。ほとんど紙面に目を落とすことなくしっかりと聴衆を見据えて語りかける姿は本当に立派でした。

私は式辞の中で、卒業生への最後のメッセージとして「辛さを幸せに変える【一】を探そう」という話をしました。次のようなものです。



これは「辛い」という字です。もう少しで幸せになれるような字です。どうしたらいいか。そうです。この字に一本の線を加えると「幸」という字になるのです。

「辛」が「幸」に変わりました。実はこの「一(いち)」が大事なのです。

辛いことがあると「もうダメだ」「私なんか」「どうせ僕は」などと落ち込むかも知れません。そんなときには、辛いときに加える「一は何か？」を考えてほしいのです。

「あと一回挑戦してみる」かも知れません。「もう一度、最初からやり直してみる」「ひと工夫加えてみる」ことかも知れません。

そして何より大切なのは、誰か一人でもいい、友達や仲間、相談できる人を見付けることです。その「誰か」がいることで、きっと道が開けます。心が満たされます。前へ進めるのです。

辛いことがあっても、幸せになるための「一」を見つけることを諦めないでください。そしてどうか、あなた自身も誰かの「一」になってほしいのです。「辛いことの後には、必ず幸せがやって来る」と信じて。

幸せの形は一人一人違います。それでも74人それぞれが、自分にとっての本物の幸せを感じることでできる人生を生きてほしいと願います。人は、誰もが幸せに生きるパスポートをもって生まれてきているのですから。

「辛さを幸せに変える【一】を探そう」これが私からの皆さんへの最後のメッセージです。

卒業生74名、一人一人の幸せを願います！